



平成22年7月12日

ガバナー補佐公式訪問

卓話 『ロータリーの原点に戻る』

RI 第2750地区・山の手東グループガバナー補佐

花岡 弘昌 様

ご紹介をいただきました花岡でございます。私はまだロータリーは満20年になっておりませんが、昨年からガバナー補佐のエレクトとしていろいろと教わってまいりました。ロータリーはなかなか奥が深く、クリンギンスミスも奉仕、親睦、多様性、高潔、リーダーシップと5つのことをおっしゃっています。この辺が基本じゃないかと思っておりますので、私としてはその線に沿って、できるだけことをしたいと思っております。

2006年に導入されたCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）はちょっと生煮えで、実は良く分からないところも多いわけです。これを始めたのは2003年ごろから。つまり今世紀に入って世界的に減員が始まって、今、大体ピーク時の1割減。日本も10万を超えてたのが9万台に落ちたのはどうしてだろうということで、ロータリーの蘇生、再生、活性化ということ踏まえて、小さなクラブでもできるようにという組織の簡素化が1つ入っております。

しかし本題は、むしろ世界的に起こって来たロータリーの勢いのなさ。これを活性化するには、少なくとも3年間の継続性、将来を見据えた計画性を導入しなきゃ駄目だということで、長期計画、あるいは効果的なクラブのひな型を作って、皆様にもお願いしたというわけでございます。各クラブに自主的にやっていただくとしても、やはり地区の力は素晴らしいものがございます。地区の方の責任感と情熱、とてもとても素晴らしいもので、私もガバナー補佐やグループ幹事は間に入って、地区の情熱、責任感を皆様にお伝えする役目

でございますが、それにあたりまして、地区では目下、今年初めてのケースとして研修のプログラムを新しくいたしました。

ロータリーは1905年に始まって105年ですが、これを4つに切って、25年ごとの特徴を出して、それを勉強しようじゃないかということでございます。私が今日持って来たのは、千葉にあるロータリーのガバナー事務所の文庫でVHSのビデオを見つけ出してDVDに変換したものです。1905年にポール・ハリスがロータリーを立ち上げたその時に戻って、もう一度考え直す必要がある。未来を解く鍵は歴史の中にあるということです。

一つ目のものにはロータリーが誕生した当時のシカゴの街の様子だとかポール・ハリスの生い立ちが紹介されている1905年から1930年までの映像が入っていて、この辺のところは私もあまり知らなくて、初めて見ました。二つ目のものにはポール・ハリスが亡くなる5年前の映像が収録されています。この中で、創設当初、ポール・ハリスがロータリーをどういうふうに考えていたか、会員の質問に答えている場面があって、ご本人の声を聞くことができます。このDVDはリーダー研修を10月に考えていますので、そこでの楽しみということにさせていただきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

